

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈小・体育〉

特別研修員 体育 伊田 悠一（小学校教諭）

単元名 『マット運動』（第4学年） 全8時間計画
単元のねらい

マット運動の楽しさや喜びに触れ、仲間との対話を通して、運動感覚・技能を高めることができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、児童同士が豊かに関わり合い、運動感覚・技能の高まりを実感しながら、運動の楽しさやできる喜びに触れることができるようにします。そのために、つかむ過程では本単元の運動につながる感覚づくりの運動や予備的な運動、試しの運動を行います。追究する過程では、運動する楽しさを味わい、「できそう」→「できた」の繰り返しを実感することができるように、技のポイントや課題を児童同士で見付け合い、課題解決に向けて練習の仕方を工夫し、技の行い方や、その技ができるようになるための道筋を共有します。まとめる過程では発表会を行い、技能の高まりを実感させ、単元全体を振り返ることで学びが深まるように構成しました。

過程

主な学習活動

1. 単元の見通しをもつ

- 本単元で中心的に学ぶ技を知る。（開脚後転、側方倒立回転）
- 本単元の運動につながる感覚づくりの運動や予備的な運動を行う。
- 試しの運動を行う。
- 単元のめあてをつかむ。

発表会に向けて、開脚後転と側方倒立回転のポイントを見付け、技をできるようにしよう



系統性と発展性を考慮した学習する技の決定

学習指導要領の例示の中から、2年間のまとまりを意識して中心的に学習する技を決定する。また、発展性がありながらも運動のポイントに共通点がある技を扱うことで、個に応じつつ学ぶ内容を共有できるようにする。

運動の基礎となる感覚づくりと予備的な運動

目標とする運動技能を習得するために必要な基礎感覚を養うことができる感覚づくりの運動及び本単元の運動につながる予備的な運動を、単元を通して十分に経験させる。それらの運動はゲーム化して遊びの要素を取り入れることで、楽しみながら取り組めるようにする。

主体的な学びの第一歩

技の動画を見せたり学習カードに単元の学習内容や学習の進め方を示したりすることで、児童が効果的に技の特性や学習の流れをつかむことができるようにし、学習の見通しをもつことができるようにする。

つかむ(1)

2. 技のポイントや課題を見付け合い、その解決の方法を工夫したり、技のできばえを伝え合ったりしながら練習する

- 技の動画を見たり実際に動いたりしながら技のポイントを見付け、技の連続図にまとめる。いーち、にーの、さん！のタイミングだよ！



- 友達と動きを見合ったり、タブレットで自分の動きを見たりして、課題を明確にする。



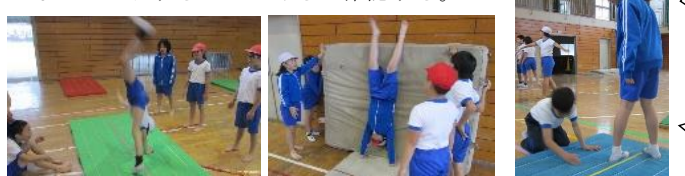
- 課題を克服するために工夫して練習する。



追究する(6)

3. 学習の成果を認め合い、単元の学びを振り返る

- 学習してきたことを発表する。
- 班や全体で学習の成果について話し合い、効果的であった練習方法や、参考になったアドバイスなどを共有する。また、本単元で学習した内容が、他の単元や学習にも役立ったりつながったりすることがあるか確認する。



まとめる(1)

対話による学びの深まりと、安心感のある発表の場

演技者は『頑張ってきたポイント』や『見てほしいポイント』を、班の仲間は『何がどのくらい上達したか』を、相手の班は『よかったポイント』や『こうすればもっとよくなりそう』という点を伝え合うことで、対話を通して学習の成果を実感することができるようにする。また、発表の際には易しい場での実施や仲間の補助も認めることで、一人一人が安心して演技できるようにする。

学習の成果を認め合い、次の学びにつなげる振り返り

何がどのようにしてできるようになったかを、個人及びクラス全体で共有し、その成果と学び方を振り返る。また、それらを他の学びでも生かしていこうとする思いをもつことができるようにする。

指導例：『マット運動』（第4学年 第1時）

1 単元の学習内容や授業の進め方、本時のめあてをつかむ。
 ○3年生までに学習してきたマット運動を振り返らせ、今までに取り組んだり習得したりした技を確認する。

T: 今までのマット運動で、どんな技に取り組んできましたか？

S: 前転や後転を学習した。腕立て横跳び越しや壁倒立もやったな。

○本単元の学習で中心的に取り組む技を紹介し、技の動画を見る。

T: 4年生では、開脚後転と側方倒立回転を中心に学習します。

S: 難しそうな技だな。でも、できるようになりたいな。

めあて 試しの運動を通して、自分のめあてをもとう

2 本単元の運動につながる予備的な運動を行う。

○手足歩きから前転 うさぎ跳びから前転 手押し車
 大きなゆりかごから立ち上がってジャンケン
 かえるの足うち 川跳び 大きな川跳び など



* これらの運動は感覚づくりの運動として、学習する技に合わせて毎時間の導入に準備運動とともに取り組む。また、前転の動きを組み合わせることで、本単元では中心的に扱わない前方向に回転する感覚も補うことができるようにする。

S: 川跳びの動きが大きくなれば側方倒立回転につながれそうだな。

3 開脚後転、側方倒立回転の試しの活動を行い、単元のめあてをつかむ。

○技の練習をする際には、動きを見合ったり、手伝い合ったりできるように、単元を通して固定した4~5人の班で取り組む。

○側方倒立回転の予備の技として壁倒立にも取り組むこととし、追究する過程では感覚づくりの運動として取り入れる。

○壁倒立については、技能が不十分な場合には以下の手順で取り組む。

頭つき壁倒立（ひざは曲がっていてよい）→頭つき壁倒立（ひざを伸ばす）
 →ひざが伸びた頭つき壁倒立から、補助者に脚を引っ張ってもらい、腕を伸ばし頭を離す

S: 開脚後転は膝を伸ばして立ち上がるのが難しい。

S: 側方倒立回転はどうすれば腰が上がるのだろう。上手にできるようになるかな。

T: 技ができるようになるためには、技のポイントを知ることが大切ですね。



単元のめあて
 発表会に向けて、開脚後転と側方倒立回転のポイントを見付け、技をできるようにしよう

4 本時のまとめをし、学習したことを振り返る。

○どんなことができるようになったら技ができるようになりそうかを問いかけ、「めあて」の達成に向けた見通しをもてるようにする。

○個人の振り返りを仲間と共有し合う場を設ける。

S: それぞれの技のポイントは何だろう？

S: 膝を伸ばした側方倒立回転ができるようになりたいな。

指導のポイント

主体的な学びの第一歩

○技の動画を視聴したり、学習カードに単元の学習内容や学習の進め方を示したりしておくことで、児童が効果的に技の特性や学習の流れをつかむことができるようにし、どのように学習を進めていくのかという見通しをもつことができるようにする。

感覚づくりと予備的な運動

○学習する技につながる感覚づくりや予備的な運動、基本の技を体験させることで、技のつながりや発展性、技の習得の見通しをもつことができるようにする。

学習意欲を高めて対話を生み出す
班づくり

○互いに補助やアドバイスをし合いながら学習を進めることができるよう、体格が近い児童でグループ間等質のグループ編制をする。

主体性を引き出す「できた」
という思い

○発展性がありながらも技のポイントに共通点がある技を取り扱うことで、能力に応じた「できそう」→「できた」の繰り返しを実感させ、主体性を引き出せるようにする。

「追究する過程」での、主体的・
対話的で深い学びの充実に向けて

○「めあて」及びその達成に向けた見通しを明確にもつことができるようにする。また、その学びの見通しや学習課題を児童同士で共有し合うことで、何がどのようにできるようになればよいのか、そのためにどのように学習していくのか、学級全体で学びの方向性を共有することができるようにする。

指導例：『マット運動』（第4学年 第6時）

- 1 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。
- 前時までに見付けた側方倒立回転のポイントを、改めて動画を視聴しながら振り返る。
- T：側方倒立回転のポイントは何か？
- S：脚を勢いよく振り上げる。 S：腰を上げ膝を伸ばす。
- S：着手と着地が一直線になるようにする。
- T：技ができるようになるために、どのように学習したらよいでしょう。
- S：友達に動きを見てもらいたいな。
- S：まだ一人ではできない子もいるから、お手伝いをし合おう。
- S：できないポイントを見付けられないとイケないな。

めあて アドバイスやお手伝いをし合って、側方倒立回転のがんばりポイント（自分の課題）を見付けよう

2 知識や技能を習得する活動を行う（活動1）。

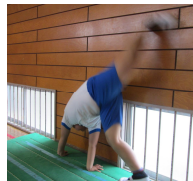
○ケガの防止のため、体の各部位（特に、手首と腕）のストレッチを十分に行う。

○感覚づくりの運動を行う。

- ・かえるの足打ち ・大きな川跳び
- ・壁倒立 ・壁倒立（開脚）

・壁倒立から開脚し4分の1ひねりながら片足ずつ着地

- S：まだ一人で壁倒立ができないからお手伝いをお願い。
- S：まだできていないかもしれないけど、お手伝いをするのが楽になったよ。上手になっている証拠だね。



3 習得した知識や技能を活用する活動を行う（活動2）。

○側方倒立回転の自己の課題を見付けるため、動きを観察し合い練習する。

○遅れ再生できる機器を設置した場を用意し、児童が自分の動きを見て確認できるようにする。

○課題に応じた練習をすることができるよう、技を練習するための易しい場を設置したり、練習方法や補助の仕方を紹介したりする。

- ・どの程度足が上がっているか実感できるゴムひも
- ・腰と膝の伸び具合を表す模型 ・手形と足形
- ・手や足を着く位置の目安となる線を引いたマット

- S：どこのポイントができていないかな。
- S：腰は上がっているけれど、膝が曲がっているよ。ゴムひもを使って目標の高さに届くように練習してみようか。



4 本時のまとめをし、学習したことを振り返る。

○よかったアドバイスやお手伝いについて共有し、見付けた「がんばりポイント」（課題）を確認する。また、次時は側方倒立回転ができるようになるための活動を工夫しながら練習し、そのがんばりポイントを克服することができるようにしていくことを伝える。

S：友達にアドバイスしてもらって、自分が思っていたよりも腰が上がっていないことに気付いた。

S：次の授業では、今日見付けた自分の「がんばりポイント」を克服したり、友達が「がんばりポイント」を克服できるように手伝ったりしたい。どんな練習をすればよいだろう？



指導のポイント

前時までの学習を振り返らせ、めあてを引き出し、つかませる

○児童と教師のやり取りや児童の学習カードから、単元のめあてを達成するために児童が必要と感じるめあてを設定できるようにする。

感覚づくりと予備的な運動

○マット運動に必要な運動感覚を身に付けることができるように、感覚づくりの運動を取り入れる。また、側方倒立回転につながる予備的な運動も取り入れることで、「活動2」の学習につなげることができるようにする。

仲間との対話を生み出す学び合い

○4～5人の班単位で練習に取り組むこととし、試技を行う児童と、それを観察してできばえのアドバイスを送ったり、補助をしたりする児童とをローテーションしていく。1度目の試技で受けたアドバイスをすぐに試すことができるように、試技を行う児童は必ず2度続けて試技を行う。

動きとの対話を生み出す教具

○児童が動きの質の向上を実感したり、向上を目指して挑戦したくなったりする教具を用意し、「動き方が分かった」「もっとやりたい」という思いを引き出すことができるようにする。

振り返りの視点

○明確になった課題は何か、どうしてその課題を明確にすることができたのかを振り返る。そして、その課題をどのようにして解決していくことができそうかという見通しをもつことができるようにする。

指導例：『マット運動』（第4学年 第8時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○単元のめあてと前時までの学習成果を比較させ、できるようになったことや、今まで頑張ってきたこと等を共有し合うことで、本時の学習である発表会に対する意欲を高めることができるようにする。

T：単元のめあては、『発表会に向けて、開脚後転と側方倒立回転のポイントを見付け、技ができるようになろう』でしたね。そのめあてを達成するために、どのように学習してきましたか。

S：技のポイントを見つけたな。

S：友達と動きを見合いながら、「がんばりポイント」（課題）を見付けたり、できるようになるために工夫して練習したりしてきた。

めあて 学習してきた技の発表会をし、マット運動の成果を振り返ろう

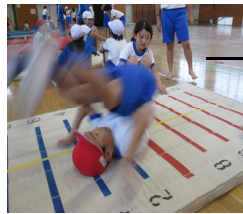
学びの自覚を促すめあての設定

○技のできばえのみに注目するのではなく、技の上達具合の伸びや、そのためにどのように学習してきたのかといった点に着目させるため、「学習の成果」という視点をもって本時の学習に臨めるようにする。

2 学習の成果を発表する準備をする。

○単元の初めの児童の姿と本時の児童の姿を比較し、その成長を積極的に児童に伝えるようにする。

○一つの技だけでなく、複数の技を発表したい児童は、技を組み合わせで連続技の発表をしてもよいこととし、その練習をするように促す。



S：開脚後転で、前は回転の途中で止まったり、横に崩れたりしていたけれど、スムーズに回って立ち上がることができるようになった。

T：お尻を遠くに着く動きが上達して、勢いよく回転をすることができるようになったからだね。

変容を積極的に伝える

○できなかったことができるようになったり、動きの質が向上したりしたことを教師が見取り伝えることで、児童が自身の変容を自覚したり、自信をもったりすることができるようにする。

3 学習の成果を発表する。

○技の発表の際には、技の実施だけではなく、その学習の成果を伝え合うことができるようにする。

○学習の成果を発表する場合は、易しい場での発表や補助も認める。また、発展技の発表も認めることで、技の系統性や発展性を感じられるようにする。



S：側方倒立回転の腰の上がりや膝の伸びを見てほしい。

S：前は腰が上がっていなかったけど、手の位置の真上まで上がった。

S：回転もまっすぐでいいね。膝はもう少し伸びるといいな。

対話による学びの深まりと、安心感のある発表の場

○演技者は『自分が頑張ってきたポイント』や『見てほしいポイント』を、グループの仲間は『何がどのくらい上達したか』を、相手のグループは『よかったポイント』や『こうすればもっとよくなりそう』という点を伝え合うことで、対話を通して学習の成果を実感することができるようにする。

4 本時及び単元のまとめをし、学習したことを振り返る。

○全体で学習の成果について話し合わせ、効果的であった練習方法や、参考になったアドバイス等を共有する。

S：友達にお手伝いをしてもらうことで、動きの感じをつかむことができた。

S：側方倒立回転の練習で、脚を引っかけるゴムひもの位置を高くしていくのが楽しかった。友達と挑戦し合えた。

○本単元で学習した内容が、他の単元や他の学習でも役立ったり、つながったりすることがありそうか問いかける。

S：動きのポイントを理解することが大切だ。そして、そのポイントの動きがより上手になると、発展技につながるんだな。

S：自分の動きを見たり友達と動きを見合せてアドバイスし合ったりすることや、できない動きは補助し合って練習することが上達につながるな。



S：今回できるようになったことを、跳び箱や鉄棒などの他の運動でも生かすことができるかな。

○発表の際には、易しい場での実施や仲間の補助も認めることで、児童一人一人が安心して演技できるようにする。

学習の成果を認め合い、次の学びにつなげる振り返り

○何がどのようにしてできるようになったかを、個人及びクラス全体で共有し、その成果と学び方を振り返る。また、それらを他の学びでも生かしていこうとする思いをもつことができるようにする。

体育科学習指導案

平成30年10月～11月 第4学年 指導者 伊田 悠一

I 単元名 器械運動「マット運動」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 知識及び技能

次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、その技を身に付けること。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技をすること。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。

(3) 学びに向かう力、人間性等

運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

III 目標

きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、安全に気を付けたりしながら運動に進んで取り組み、自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えながら、開脚後転と側方倒立回転を身に付けられるようにする。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (1/8)

1 ねらい 学習の進め方を知り、準備や片付けの仕方を確認するとともに、マット運動の基本となる運動及び試しの運動を通して、自分のめあてをもつことができるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 単元の学習内容や授業の進め方、本時のめあてをつかむ (10分)</p> <p>○3年次までに学習してきたマット運動の学習を振り返らせる。</p> <p>○本単元の学習で中心的に取り組む技を紹介する。</p> <p>○学習カードを見ながら、単元の学習内容や学習の進め方をつかませ、見通しをもたせる。</p> <p>○体操選手の演技を視聴させ、その動きのダイナミックさや勢いのよさを感じることができるようになる。また、体操選手でも、技のつなぎに側方倒立回転や大きな前転を行っていること等を知ること、児童の興味・関心を引き付けることができるようにする。</p> <p>めあて 試しの運動を通して、自分のめあてをもとう。</p>			
<p>2 本単元の運動につながる予備的な運動を行う (15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手足歩き (腰を頭より高くしてゆっくり歩く→前転) ・うさぎ跳び (手を着いた位置で着地→前転) ・手押し車 (腰を高い位置に保つ) ・大きなゆりかご (耳の横にしっかりと手を着く。前に立ち上がって友達とジャンケン。) ・かえるの足打ち (徐々に膝を伸ばして) ・川跳び ・大きな川跳び ・マット倒れ込み (補助や台を使つての倒立から、エバーマットに倒れ込む) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>*これらの運動は感覚づくりの運動として、毎時間の導入に準備運動とともに取り組んでいく。</p> </div>			
<p>3 開脚後転、側方倒立回転の試しの活動を行い、単元のめあてをつかむ (15分)</p> <p>○技の練習をする際には、動きを見合ったり、手伝い合ったりすることができるように、単元を通して固定した4~5人の班で取り組むこととする。</p> <p>○側方倒立回転の予備の技として、壁倒立にも取り組むこととする。</p> <p style="padding-left: 20px;">*追究する過程では、壁倒立は感覚づくりの運動として取り入れる。</p> <p>○壁倒立については、技能が不十分な場合には以下の手順で取り組む。</p> <p style="padding-left: 20px;">頭つき壁倒立 (膝は曲がっていてよい) →頭つき壁倒立 (膝を伸ばす)</p> <p style="padding-left: 20px;">→ひざが伸びた頭つき壁倒立から、補助者に脚を引っ張ってもらい、腕を伸ばし頭を離す</p> <p>○技がうまくできる場合には「何がよいのか」、うまくできない場合には「何が足りないのか」「どうすればできるようになりそうか」を考えたり話し合ったりするように促す。</p>			
<p>単元のめあて 発表会に向けて、開脚後転と側方倒立回転を行うポイントを見付け、技ができるようになる。</p>			
<p>安全に気を付けながら試しの運動を行い、自分のめあてをもつことができる。〈観察 (1)〉</p>			
<p>4 本時のまとめ・振り返りをする。(5分)</p> <p>○どのようなことができるようになれば技ができるようになりそうか問い掛け、「単元のめあて」の達成に向けた見通しをもてるようにする。</p> <p>☆技のポイントを見付けながら、開脚後転と側方倒立回転の練習をしていくんだな。技が上手にできるようになりたい。友達と協力して練習をして、発表会でよい演技ができるように頑張ろう。</p>			

V 本時の展開 (6/8)

1 ねらい 技のポイントや動きの出来栄を伝え合うことを通して、側方倒立回転の自己の課題を見付けることができる。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ (5分)</p> <p>○前時までに見付けた側方倒立回転のポイントを、改めて動画を視聴しながら振り返らせる。</p> <p>○前時を振り返らせ、技を行うにあたって難しいと感じたポイントはあるかどうか問い掛ける。</p> <p>めあて アドバイスやお手伝いをし合いながら、側方倒立回転の頑張りポイント (自己の課題) を見付けよう</p>			
<p>2 準備運動及び感覚づくりの運動を行う (活動1) (15分)</p> <p>○ケガの防止につながるように、体の各部位 (特に、手首と腕) のストレッチを十分に行う。</p> <p>○マット運動で必要な運動感覚を身に付けたり、筋力を高めたりすることができるように、感覚づくりの運動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるの足打ち ・大きな川跳び ・壁倒立 ・壁倒立 (開脚) ・脚の振り上げ (足で壁タッチ。片足でのタッチ→脚を交差させて両足交互にタッチ) ・壁倒立から開脚し4分の1ひねりながら片足ずつ着地 			
<p>3 側方倒立回転の自己の課題を見付けるため、動きを観察し合い練習する (活動2) (20分)</p> <p>○4~5人の班単位で練習に取り組むこととし、試技を行う児童と、それを観察して出来栄のアドバイスを送ったり、補助をしたりする児童とをローテーションしていく。1度目の試技で受けたアドバイスをすぐに試すことができるように、試技を行う児童は必ず2度続けて試技を行う。</p> <p>○遅れ再生ができる機器を設置した場を用意し、児童が自分の動きを見て確認できるようにする。</p> <p>○技の動きを捉えて理解することができるように、技の動画をスロー再生した映像をスクリーンに映し続け、いつでも確認することができるようにする。</p> <p>○学習カード (技の連続図) に課題となるポイントを記入したり印を付けたりするように促す。</p> <p>○課題に応じた練習をすることができるよう、技を練習するための易しい場を設置したり、練習方法や補助の仕方を紹介したりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>*課題を解決するための学習は次時に設定しているため、この時間では解決の見通しをもてればよいこととする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・どの程度足が上がっているのかを実感できるゴムひも ・腰と膝の伸び具合を表す模型 ・手形と足形 ・手や足を着く位置の目安となる線を引いたマット <p>技のポイントや動きの出来栄を伝え合いながら、自己の課題を見付けている。</p> <p style="text-align: right;">〈観察、学習カード (2)〉</p>			
<p>4 本時のまとめ・振り返りをする (5分)</p> <p>○よかったアドバイスやお手伝いについて共有し、見付けた頑張りポイントを確認する。また、次時は側方倒立回転ができるようになるための活動を工夫しながら練習し、その頑張りポイントを克服することができるようにしていくことを伝える。</p> <p>☆友達にアドバイスしてもらって、自分が思っていたよりも腰が上がっていないことに気付けた。</p> <p>☆次の授業では、今日見付けた自分の頑張りポイントを克服したり、友達が頑張りポイントを克服できるよう手伝ったりしたい。どんな練習をすればよいだろう？</p>			

V 本時の展開 (8/8)

1 ねらい できるようになったり、上手になったりした技の発表会を行うことを通して、学習の成果を認め合えるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ (5分)</p> <p>○『発表会に向けて、開脚後転と側方倒立回転を行うポイントを見付け、技ができるようになる』という単元のめあてと、前時までの学習成果を比較させる。</p> <p>○できるようになったことや、今まで頑張ってきたこと等を共有し合うことで、本時の学習である発表会に対する意欲を高めることができるようにする。</p>			
<p>めあて 学習してきた技の発表会をし、マット運動の成果を振り返ろう。</p>			
<p>2 学習の成果を発表する準備をする (10分)</p> <p>○ケガの防止につながるように、体の各部位 (特に、首と手首) のストレッチを十分に行う。</p> <p>○単元の初めの児童の姿と本時の児童の姿について、その技能の伸びや成長を積極的に児童に伝えるようにする。また、今まで共に学習を進めてきた班で活動をさせ、互いの頑張りや成長を認め合うことができるようにし、発表会への意欲と自信を高めさせる。</p> <p>○一つの技だけでなく、複数の技を発表したい児童は、組み合わせで連続技の発表をしてもよいこととし、その練習をするように促す。</p>			
<p>3 学習の成果を発表する (20分)</p> <p>○単なる技の発表だけではなく、演技者は『自分が頑張ってきたポイント』や『見てほしいポイント』を、班の仲間は『何がどのくらい上達したか』を、相手の班は『よかったポイント』や『こうすればもっとよくなりそう』という点を伝え合うこととする。</p> <p>○学習の成果を発表する場合は、易しい場での発表や補助も認めることで、児童一人一人が安心して演技を行うことができるようにする。</p> <p>○発展技ができるようになった児童には、その発表もさせることで、技の系統性や発展性を感じることができるようにする。</p>			
<p>開脚後転と側方倒立回転ができる。 (観察 (3))</p> <p>友達と励まし合ったり考えを認め合ったりしながら、進んで運動に取り組んでいる。</p> <p style="text-align: right;">(観察、学習カード (1))</p>			
<p>4 本時及び単元のまとめをし、学習したことを振り返る (10分)</p> <p>○全体で学習の成果について話し合わせ、効果的であった練習方法や、参考になったアドバイス等を共有する。</p> <p>○本単元で学習した内容が、他の単元や学習でも役立ったり、つながったりすることがありそうか問い掛ける。</p> <p>☆開脚後転や側方倒立回転のポイントが分かった。それから、そのポイントの動きがより上手になると、発展技につながるのだな。</p> <p>☆自分の動きを見たり友達と動きを見合ったりしてアドバイスし合ったりしたことが、上達につながった。今回できるようになったことを、跳び箱や鉄棒などの他の運動でも生かすことができるかな。</p>			

*単なる技の出来栄の発表でなく、『学習してきたことの発表』であることを意識させるため、『以前と今の姿の違い』も伝え合わせる。

指導計画 体育科 第4学年 単元名「マット運動」(全8時間計画)

目標	きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、安全に気を付けたりしながら運動に進んで取り組み、自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えながら、開脚後転と側方倒立回転を身に付けられるようにする。			
評価規準	(1)運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができる。 (2)自己の能力に適した課題を見付け、技ができるようになるための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができる。 (3)開脚後転と側方倒立回転の行い方を知り、その技をすることができる。			
過程	時間	○ねらい 〇めあて	☆振り返り (意識)	◇評価項目 <方法 (観点)>
つかむ	1	○学習の進め方を知り、準備や片付けの仕方を確認するとともに、基本の運動及び試しの運動を通して、自分のめあてを設定する。 試しの運動を通して、自分のめあてをもとう。	☆技のポイントを見付けながら、開脚後転と側方倒立回転の練習をしていくんだな。体操選手の映像を見たけれど、自分もいろいろな技ができるようになりたい。友達と協力しながら学習をして、上手になりたい。発表会でよい演技をしたい。	◇きまりを守り安全に気を付けながら試しの運動を行い、自分のめあてをもつことができる。 <観察 (1)>
追究する	1	○開脚後転のポイントを見付け、その行い方を理解することができる。 開脚後転のポイントを見付けよう。	☆開脚後転では、『おしりを遠くに着いて (はじめ)』『脚を後ろにのばす (なか)』『腰を上げながら手でマットを強く押す (おわり)』ことがポイントだな。でも、まだ上手に回転しきれないな。勢いが足りないのかな。	◇開脚後転のポイントを理解している。 <観察、学習カード (3)>
	2	○技のポイントや動きの出来栄を伝え合いながら、開脚後転の自己の課題を見付けることができる。 アドバイスやお手伝いをし合いながら、開脚後転の頑張りポイントを見付けよう。	☆友達にアドバイスしてもらって、自分が思っていたよりもおしりを遠くに着くことができていることに気付いた。 ☆次の授業では、今日見付けた頑張りポイントを克服できるように練習しよう。	◇技のポイントや動きの出来栄を伝え合いながら、自己の課題を見付けている。 <観察、学習カード (2)>
	3	○開脚後転のポイント及び自己の課題を踏まえ、開脚後転ができるようになるための活動を選ぶことができる。 開脚後転の頑張りポイントができるようになるための活動を選び、練習しよう。	☆背支持倒立や、ゆりかごから腰を上げる練習を通して、技の終わりで腰を浮かす感じがつかめたぞ。 ☆マットに引いた線を、おしりを着く位置の目安にして練習したら、少しずつ遠くに着くことができるようになってきた。	◇技のポイント及び自己の課題を踏まえ、技ができるようになるための活動を選んでいる。 <観察、学習カード (2)>
	4	○側方倒立回転のポイントを見付け、その行い方を理解することができる。 側方倒立回転のポイントを見付けよう。	☆側方倒立回転は『壁倒立に似た動き (はじめ)』『腰を上げ膝を伸ばす (なか)』『マットに着く手と着地の足が一直線になるようにする (おわり)』のがポイントだな。	◇側方倒立回転のポイントを理解している。 <観察、学習カード (3)>
	5	○技のポイントや動きの出来栄を伝え合いながら、側方倒立回転の自己の課題を見付けることができる。 アドバイスやお手伝いをし合いながら、側方倒立回転の頑張りポイントを見付けよう。	☆友達にアドバイスしてもらって、自分が思っていたよりも腰が上がっていないことに気付いた。 ☆次の授業では、今日見付けた頑張りポイントを克服できるように練習しよう。	◇技のポイントや動きの出来栄を伝え合いながら、自己の課題を見付けている。 <観察、学習カード (2)>
	6	○側方倒立回転のポイント及び自己の課題を踏まえ、側方倒立回転ができるようになるための活動を選ぶことができる。 側方倒立回転の頑張りポイントができるようになるための活動を選び、練習しよう。	☆○○さんは、初めは倒立の姿勢になるお手伝いをするのが大変だったけど、楽になってきたな。○○さんが上達している証拠だな。 ☆ゴムを張った場で、最初は胸の高さまでしか足が届かなかったけれど、頭の位置まで届くようになったぞ。	◇技のポイント及び自己の課題を踏まえ、技ができるようになるための活動を選んでいる。 <観察、学習カード (2)>
まとめ	1	○できるようになったり、上手になったりした技の発表会を行うことを通して、学習の成果を認め合えるようにする。 学習してきた技の発表会をし、マット運動の成果を振り返ろう。	☆友達と動きを見合ってアドバイスし合ったり、お手伝いし合ったりしたことが上達につながった。自分の動きを見ることも効果的だった。 ☆今回分かったことやできるようになったことを、跳び箱や鉄棒等ほかの運動でも生かすことができるかな。	◇友達と励まし合ったり考えを認め合ったりしながら運動に進んで取り組んでいる。 <観察 (1)> ◇開脚後転ができる。 <観察 (3)> ◇側方倒立回転ができる。 <観察 (3)>